

発行 車体発 25 第 182 号
2025 年 10 月 31 日

2025年度秋季会員大会 会長挨拶

10月31日に開催しました秋季会員大会における会長 富山 隆（日産車体（株）社長）の挨拶をお知らせいたします。

会員の皆様には日頃より当会の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

ようやく秋の気配を感じる穏やかな季節となりましたが、各地では記録的高温や大規模な林野火災、台風による豪雨被害など、気候変動対応の重要性を改めて感じさせられる年となりました。

もし、お困りのことがございましたら、ご遠慮なく当会事務局までご相談いただければと存じます。

それでは、当会を取り巻く状況についてお話しをさせていただきます。

まず、本年度4月から9月の当会会員の累計生産台数は、112万3千台となり、前年に対し108%と増加しました。

一方、委託生産車を除く、当会特有車は7万3千台となり、前年比98%となりました。

また、取り巻く環境につきましても、米国による中・大型トラックへの追加関税、長引く国際紛争や物価高騰等の影響もあり、先行きは不透明で、予断を許さない状況が続いております。

次に事業計画の進捗状況について、少しお話しをさせていただきます。

今年度も、カーボンニュートラル対応、活性化活動、ガバナンスなど主要6項目について活動しております。

「カーボンニュートラル対応」につきましては、

本年度より「CNを正しく理解する」を推進してきたフェーズIから、有効策を実施し「CNの実現」を推進していくフェーズIIへと移行しています。

そのために、CO2排出量削減事例や、補助金に関する情報などの発信強化と、アンケートを通じた各社の困りごとの改善を行っていきます。

また東京ビッグサイトでは、一昨日より「ジャパンモビリティショー」が開催されています。

「活性化活動」として、当会も屋内 東6ホールにて「みんなが見たい 知りたい 楽しい」をコンセプトに展示しております。

最後にガバナンスです。

事業者団体活動と独占禁止法（特に競争法）は紙一重であり、個々の判断で「これぐらい良いだろう」と思っていたことが、大変重い制裁へと繋がる事があります。

これに対し、皆様自身そして会員会社をお守りする為にも、安心して活動出来るルールの検討を進めております。

一部、皆様にとってご不便をおかけする内容もあるかと思いますが、一人ひとりが自分事として受け止め、ご理解、ご協力を頂けますよう、お願い致します。

以上のように、現時点では、概ね計画どおり進捗していると判断しております。下期も継続して推進をして参りますので、ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

最後に会員各位の益々のご発展と、ご健勝を祈念致しまして挨拶に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

(本件の問合せ先) 日本自動車車体工業会 事務局 森田